

総合戦略に定めた基本目標



○メインテーマ

未来に向けて種を蒔く

～「ひとづくり」から始まる「まちづくり」～

○基本目標

- I. 「担い手を育成するとともに、安心して働ける九重町をつくる」
- II. 「九重町とのつながりを築き、新しいひとの流れをつくる」
- III. 「結婚・出産・子育ての希望が叶う九重町をつくる」
- IV. 「ひとが寄り添い、安心してくらすことができる九重町をつくる」

九重町では、第2期となる「九重町人口ビジョン」及び「九重町まち・ひと・しごと総合戦略」を令和2年3月に策定しました。

九重町の人口減少の抑制 地域経済の維持に向けて

九重町では、平成27年10月に、国の「まち・ひと・しごと創生法」の制定を受け、「九重町人口ビジョン」と「九重町まち・ひと・しごと総合戦略」を策定しました。

この「九重町まち・ひと・しごと総合戦略」が昨年度をもつて計画期間が終了となりました。そこで、2020（令和2）年から5年間の新たな地方創生及び人口減少対策の重要戦略に位置付ける「第2期九重町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

人口の将来展望

「九重町人口ビジョン」では、人口の将来展望としての、2040（令和22）年に国立社会保障・人口問題研究所（社人

研）の推計値5,881人を上回る6,711人を目指していくことを決めました。

そのため、社会減の抑制及び合計特殊出生率の向上を目標に掲げ、「第2期九重町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる様々な事業に取り組み、人口減少カーブの鈍化を目指します。

目指すべき将来の方向性

人口が減少すると地域内の消費活動も減少してしまうため、地域産業や雇用などの縮小にもつながり、人口流出が加速する悪循環を起こすことにもつながります。また、人口減少と高齢化は、さまざまな分野で大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

九重町は、昭和の大合併によ

九重町人口ビジョン（人口の将来展望）

2040年
6,771人

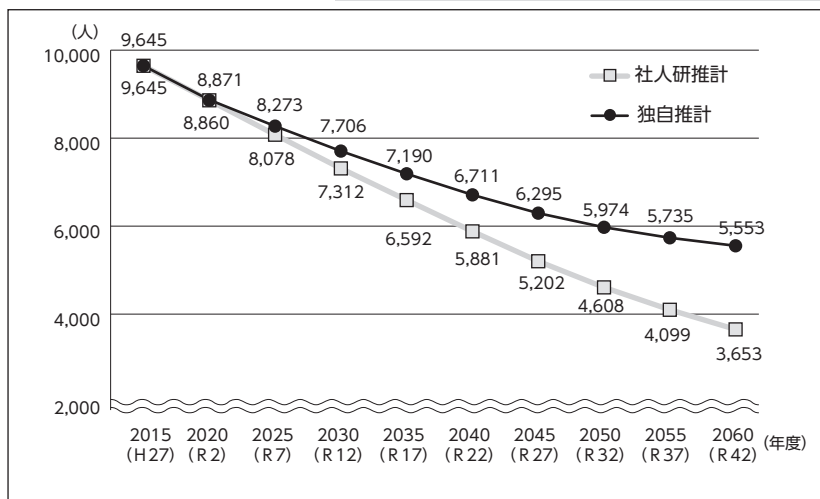
合計特殊出生率

- ▶ 2030年までに 2.07
- ▶ 2040年までに 2.30



人口の社会増減

- ▶ 2025年（令和7年）までに均衡



り1町3村が合併して発足した1955（昭和30）年の21,316人をピークに急激な人口減少が続いています。近年では、転出数が転入数を上回る社会減が一貫して続いており、特に、高校卒業後の進学や就職に伴った転出が目立ち、若い世代

の転出が続いています。また、死亡数が出生数を上回る自然減も続いており、現在も出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向で推移しています。人口減少の抑制や地域社会を維持していくためには、これらの課題解決が不可欠です。

メインテーマ・基本目標

このため町は、次世代の人材育成こそが、持続可能な九重町を創造していくために取り組むべき課題であると捉え、「未来に向けて種を蒔く」「ひとづくり」から始まる「まちづくり」をメインテーマに設定。「担い手を育成するとともに、安心して働ける九重町をつくる」、「九重町とのつながりを築き、新しいひとの流れをつくる」、「結婚・出産・子育ての希望が叶う九重町をつくる」、「ひとが寄り添い、安心してくらすことができる九重町をつくる」という4つの基本目標を立てました。

具体的には、「担い手を育成するとともに、安心して働ける九重町をつくる」は、基幹産業である農林業・観光業の担い手を育成するとともに、雇用の創出や起業が叶う環境づくりを目指します。

「九重町とのつながりを築き、新しいひとの流れをつくる」は、空き家や既存施設の有

効活用等により、九重町への移住者を積極的に呼び込む施策を実行します。また、自然、食、地域文化等の町の魅力を満喫してもらえよう交流人口（入込客数）の増加を図ります。

「結婚・出産・子育ての希望が叶う九重町をつくる」は、結婚から妊娠・出産・子育ての各段階においてきめ細やかな支援体制を構築するとともに、郷土愛を持ち、グローバルな視野をもった子どもの育成に努めます。「ひとが寄り添い、安心してくらすことができる九重町をつくる」は、安心して生活できる基盤整備を行うとともに、地域コミュニティの維持及び地域共生社会の実現に努めます。



▲九重町ホームページで「九重町まち・ひと・しごと総合戦略」をご覧ください

お問い合わせ

企画調整課

☎ 76-3807